

第 16 回サッカースタジアム検討協議会の議事結果について

○ 議事結果

以下の (1) ～ (3) について事務局から説明し、委員による議論が行われた。

(1) LCC (ライフサイクルコスト) の試算結果 【資料 2】

・提出資料により LCC について、初期整備費用、支出費用が提示され、議論した。

原案通り承認された。収入については、次回協議会に提示し、資金調達のあり方を含め、議論することとした。

○ 広島みなと公園に、特殊工事費用として津波対策費は計上しないのか。

⇒ 津波対策は、スタジアム単体で捉えるものではなく、地域一体の防災的な費用であることから、スタジアム建設の特殊工事費には計上していない。

なお、広島県津波想定浸水図によると、広島みなと公園、旧広島市民球場跡地ともに、最大クラスの津波時には 0.3m 以上 1m 未満の浸水深と想定されており、高潮対策が実施されている。

(2) 候補地別評価 【資料 3・4、参考資料】

・提出資料により候補地別評価について議論した。

「1 用地条件」から「8 周辺機能との連携」までは一部を修正し、原案通り承認された。「9 経済やまちづくりへの波及効果」、「10 コスト性」、「11 迅速性」については、今回の議論を踏まえ、会長と事務局で資料を修正し、次回協議会に提出することとした。

○ 用地条件の規制制約の評価項目に、観客の安全性の確保のための滞留スペースを入れるべき ⇒ 評価項目として挿入。

○ クラス 1 の規模の説明と 3 万人は議論のたたき台とするとしてほしい。

⇒ 20,000～40,000 人の規模を挿入。評価はあくまで 3 万人で行う。適正規模はまとめの段階で言及。

○ アクセス性、広域利用の飛行機利用において、みなと公園は高速道路が整備され便利になった。△でよいのか。

⇒ 広域利用については、公共交通による利用で評価（飛行機利用については、現在運行されているリムジンバスのみで評価）

広域利用の欄に「公共交通利用」と付記

○ 付加機能（多機能化・複合開発）はメニュー数だけで評価するのではなく、その内容によって収益性を高めることは可能である。メニューの内容で評価する記述をお願いしたい。

⇒ 評価表の各候補地の欄に、賑わい創出に関する記述を加える。

○ コスト性について、マツダスタジアムの資金調達例が一つの事例として参考となる。

⇒ 市の担当部署が説明を行う。

○ 都市公園内にスタジアムを整備する場合、整備費の 1/2 が社会資本整備総合交付金の交付対象となる。これを資料に記入すべき。

⇒ 制度上、交付対象となるが、現在の公園関係の交付規模を大幅に上回ることは非常に困難である。

(3) 最終取りまとめ「サッカースタジアムのあるべき姿（仮称）」 【資料 5】

・提出資料によりサッカースタジアムのあるべき姿の構成について議論した。

構成について原案通り承認された。今後、この構成で最終取りまとめをまとめていくこととした。

○ 報告

以下について事務局から報告した。

アンケート調査結果 【資料 6】

・提出資料によりアンケートの調査結果について報告した。